

東京メトロ銀座線1000系車両が「ブルーリボン賞」を受賞

新技術による走行安定性の向上や省エネ化そして開業当時を偲ばせる外観などが評価されました

東京メトロ（本社：東京都台東区 社長：奥 義光）の銀座線1000系車両が、本日、鉄道友の会が選定する2013年ブルーリボン賞を受賞しましたので、お知らせいたします。

昭和33年に制定されたブルーリボン賞は、同会が毎年1回、前年中に営業運転を開始した車両の中から、同会員による投票をもとに、「ブルーリボン賞・ローレル賞選考委員会」が優秀と認めた車両に対して贈られるものです。

銀座線1000系車両は、現在営業運転を行っている01系車両の後継車両として、平成24年4月より営業運転を開始した車両で、線路の曲線にあわせて車軸が可動する操舵台車により騒音・振動を減少させた点、消費電力を大幅に抑えられる永久磁石同期モータ（PMSM）や、前部標識灯や車内照明にLEDを採用するなど環境負荷を低減した点、さらに85年前（昭和2年12月）東洋初の地下鉄として開業した当時の1000形車両を偲ばせるレトロ調な外観に仕上げた点などが高く評価されました。

なお、55年にわたるブルーリボン賞の歴史の中で、地下鉄車両が受賞したのは今回が初めてです。

銀座線は本年度までに12編成、平成28年度までに全38編成が1000系車両となる予定です。



銀座線1000系



操舵台車